

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	社会的孤立を防ぐ居場所拡張事業
資金分配団体名:	公益社団法人ユニバーサル志縁センター
実行団体名:	特定非営利活動法人CAN
実施時期:	2021年6月～2022年2月
事業対象地域:	札幌市周辺
事業対象者:	児童養護施設や里親家庭などの社会的養護を離れて暮らす子ども・若者・社会生活に困難を抱えている子ども・若者

Version 3.2

日付: 2022年 3月 日

I. 事業概要

事業実施概要	社会的養護の出身者や社会生活に困難を抱えている若い人が、安心して気軽に立ち寄り、スタッフに相談したり、ひと休みしたりできる居場所「ピッケノハコ」を運営で開設した。コロナ禍で多くの公的居場所や民間の居場所が閉鎖されたり、予約制・入館制限などを行うなか、予約制をとらずに、正月3が日以外の毎日利用できるようにした。困窮に応じて、居場所でも食材や日用品の配布、食事の提供を随時行うと同時に、他団体と協力して、月に一度食料品・生理用品の配布を行い、その場でピッケノハコの周知をはかった。さらに、繁華街での街頭啓発を行い、支援を必要とする方に情報が届くよう、呼びかけた。またコロナ禍で外出を控えている方や、困窮により交通費の捻出が難しい方の相談に応じるため、対面だけでなく電話やSNSの利用、こちらから出向くなど多様な相談手段を提供した。深刻な事態になっても困りごとを共有し寄り添えるような関係性を構築するため、誕生日などの節目にはカードを送り、関係をつないだほか、居場所での関係性においても、支援一被支援という構図になることを避け、同じ場所で同じ時間を共有することを大切にされた。
--------	--

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	当法人では、若年層にはもともと、自ら繋がっていかねばならず、また煩雑な本人確認などの手続きを必要とする公的支援は親和性を持ちにくいのでは、と分析していた。新型コロナウイルスの蔓延は、非熟練非正規労働者へのしわ寄せとなり、また、対面での相談窓口等が縮小する一方で、救済措置へのアクセスは込み入った書類作成を要するなど、わたしたちが支援している若者には決して使い勝手のいいものではなかった。そんな中で、「相談」を掲げるのではなく、居場所で過ごしてもらうことで信頼関係を培い、現実に困窮して立ち行かなくなった時には頼れる隣人としてそばにいるという居場所の意義は大きかったと考える。
-------------------	---

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）（事業計画から転記）	④指標（事業計画から転記）	⑤目標値・目標状態（事業計画から転記）	⑥結果(量化できるものは%も記載、最大100%)	⑦考察
その他		社会生活に困難を抱えている若い人とつながっている。	公式lineの登録者数 誕生日カード、年賀状等送付件数 夜回り回数	line 40 カード等20 夜回り8	LINE64 (100%) カード等33 (100%) 夜回り5(63%)	当初は、スタッフの知り合いを通じた繋がりが、関係機関からの紹介などが目立っていたが、徐々にSNSの発信をキャッチした方、連携団体のアウトリーチ事業からつながってくる方が増え、利用者の方々の広がりを感じている。
その他		社会生活に困難を抱えている若い人が安心できる場所として認知している	居場所来訪者数 カード・パンフレット 配布機会件数	居場所来訪者数350 カード・パンフレット 配布 9	居場所来訪者数 479 (100%) カード等 配布16 (100%)	一度訪ねてくださると、二度、三度と間隔はあいても繰り返し来訪して下さる方が多く、安心できる場と感じていただいている。ただ、支援者に促されて来訪された方の定着は概して低いように感じられ、自ら選んで来られる方とは対照的である。
その他		社会生活に困難を抱えている若い人が困りごとを相談できる	line、居場所、電話等での相談件数 スタッフの研修回数	相談件数 700 研修回数 5	相談件数 1577 (100%) 研修回数 12 (100%)	相談の内容は、すでに自分の中で答えを出していることの確認のようなことから、DVや多重債務、望まない妊娠などすぐには答えの出ない問題まで多岐にわたるため、研修の幅を広げ、支援者のスキルを高めていく必要とともに、専門的な相談内容をつなげられる連携先を開拓する必要を感じている。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況（事業計画から転記）	社会生活に困難を抱えている若い人より多く繋がりをもち、生活の中のちょっとした困りごとにも相談できるようなゆるやかな関係性を継続していくことで、ここにくれば安心であるという居場所として認知され、多くの人に利用してもらう。またアフターケアを担う事業所として、札幌市からの助成を受けられるようになるための実績をのこし、それと同時に、この事業の必要性について、行政に理解を求めて行く。
考察等	事業終了時には、事業開始時からするとはるかに多くの若い方々と繋がることができた。中には「困難」といった時に一般的に想定されるようなものではない、深くない面に根差した困難を抱えている方もいて、そうした方々がなかなか公的な相談や支援に繋がりにくい背景が少しだけでも見えてきたように思える。また、行政においても、少しずつこうした寄り添いの必要性を認識してきているという手ごたえはあるため、類似の事業をする団体と連携を深め、なお一層行政の理解を求めていく必要がある。

V. 活動

活動	進捗	概要
居場所を確保して、家具や家電をそろえる	計画通り	もとのピッケノハコの近隣に居場所を確保し、鍵のかかるロッカー、ついでに、座椅子などを設置することで、安全・安心を感じていただけるような環境整備に繋がった。
SNS発信により、居場所の利用者に対して開設日時や居場所の様子を伝える。また支援者や連携団体へ活動内容を伝える	計画通り	Twitter、Instagramなどで、毎月の利用時間などを記したカレンダーや、提供した食事の画像などをアップロードした。
つながりを感じてもらえるように、誕生日のカードや年賀状を送る。	計画通り	スタッフ手作りの誕生日カード、年賀状を用意し、郵送した。
クリスマスなどのイベントを行うことで、つながりを感じてもらいきっかけを増やす。またはコロナで開催できない場合は、プレゼントを贈ることで繋がりを感じてもらうようにして、孤立感を緩和する。	ほぼ計画通り	クリスマスの時期にはコロナの感染状況が少し落ち着いていたこともあり、二部制にし、一度に大勢にならないように配慮してクリスマス会を実施した。
アウトリーチとして、夜回りを行う。	ほぼ計画通り	連携団体と一緒に夜回りを行った。また、夜回り活動を以前から実施している他県の団体の協力を得て、声掛けのタイミング、視点の持ち方などを学んだ。
他の支援団体と連携して、食料配布のイベントを行い、そこで居場所周知のカードを設置する。	計画通り	月に一度、食料配布を定期的実施することで、他の支援団体との情報交換や、居場所周知のカード配布に繋がった。
他の公的機関などが休館していること多い土日祝も開所することで利用しやすくする。	計画通り	平日は18時まで、土日祝日は20時までと時間をずらして開所している。
居場所と一緒に過ごすことで、いざというときの相談先として思ってもらえるような関係性を構築する	計画通り	数を重ねて来訪して下さる方も増え、ゆるやかに関係性を構築している。
LINE相談にも応じることで、コロナの影響で直接会えなくても不安な気持ちを話してもらえるようにする。	計画通り	コロナの不安を抱いてなかなか家を出られない方からも相談が寄せられた。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	今回助成を得たことで、交流会を通じて知り合った他団体の方の事業に、利用者の方が参加することができた。
---------------------	--

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	コロナ禍が長引き、閉塞感はむしろ深まっている印象を受ける。また、自粛と開放が交互に繰り返される状況が、変化に対応しづらい特性の方々には、不安定要因となっており、状況はむしろ悪くなっていると思われる。
-----------	---

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
さっぽろ青少年女性活動協会	食料配布のイベント・夜回りを協同で実施。また、札幌市の困難を抱えた若年女性支援を協力して行っている
認定NPO法人カコタム	児童養護施設、里親ファミリーホーム等を訪問し、措置解除前から関係性を作る活動を協力して行っている。訪問した里親ファミリーホームの方が、居場所を時々訪れてくれている
NPO法人ねっこぼこのいえ	ねっこぼこのいえが行っている相談事業のケースについて、コンサルティングを行っている。
おんなのスペース おん	食料配布のイベントを協同で開催。また、困難を抱えた若年女性の自立支援や、DVケースについてアドバイスを受ける一方、DV相談をされた方がピッケノハコに紹介されてくることもある。
札幌市里親会	アフターケア事業の必要性を札幌市に伝える意見交換会を実施。

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。(精算金額と一致させる必要はありません)

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	5,116,580	5,136,355	100.4%
	管理的経費	443,515	459,820	103.7%
合計		5,560,095	5,596,175	100.6%
補足説明		合計額超過分は法人負担		

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)	<ul style="list-style-type: none"> ・NHK ・北海道新聞：居場所事業の紹介 ・毎日新聞
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	<ul style="list-style-type: none"> ・2つ折りカード、3つ折りリーフレット ・自立援助ホーム運営期からこれまでの活動をふりかえる小冊子「若者たちと歩んで」を製作し、関係団体等に送付した ・ホームページ開設の準備を8月より始め、12月に公開した。
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法 (事例)	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページに掲載
4.報告書等	

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	整備中	定款、給与規定、就業規則はあるものの、内部告発に関する規定は未整備
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		理事会においても整備の必要性を認識し、次期総会を目指して整備に努めている。
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	一部未公開	給与規定、就業規則についてはwebサイト上で一般公開している。 (https://can-picke.com/about-can) 定款については今後同ページで公開予定である。
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	社員総会は年度に最低一回は開催。
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	いいえ	利益相反防止に関する規定が未整備のため。ただし、事業内容については毎月一度行われ
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	いいえ	コンプライアンス規定を整備中であるため。
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査 <input checked="" type="checkbox"/> 内部監査 <input type="checkbox"/> 実施予定はない	舞年度総会前に、監事により監査を行っている。
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	いいえ	内部通報制度を含め、コンプライアンス規定を2022年度総会で制定する準備中であるため